

モデル事業名	二地域居住・定住希望者のニーズを踏まえた古民家活用などによる受け入れ環境整備事業
活動団体名	特定非営利活動法人 山梨ガバメント協会
ホームページ	http:// (活動団体のHPのアドレス) http://www.yamanashi-ga.org/
所属/ 担当者名	事務局長 磯村賢一
連絡先	080-3279-9995 k-isomura@fruits.jp
活動地域	山梨県山梨市

山梨市の概要

山梨県北東部に位置し首都圏から 100 キロ圏内に位置する山梨市は、森林、溪谷、温泉などの自然資源や歴史文化資源に恵まれた典型的な中山間地域である。

主産業は桃や巨峰など果樹を中心とした農業だが、少子高齢化（65 歳以上 27%）、過疎化により空家や荒廃農地が増え農業後継者不足（平成 2 年に比し 40%減）も顕在化している。

主な地域状況 ・人 口 3.9 万人 ・世帯数 1.4 万人



【山梨市位置図】



【八幡地域】



【活動風景】

● 活動地域の課題

過疎化により多くの空き家が点在しているが、先祖から受け継いだ家屋を売ったり貸したりするなど考える人が少ない。しかし、放置しておけば、単に朽ちるばかりで、人口減少と地域コミュニティの機能は、低下する一方であり、防犯上からも空き家の点在は、課題とされている。

こうしたことを踏まえ、山梨市では、平成 18 年度から空き家バンクを実施している。

既に、50 件の成約に至っているが、成約者の半数が、二地域居住者であり、アンケート結果によると、二地域居住を希望する人が全体の半数余りを占めている。

さらに、住居として、古民家を求める人が、全体の 4 割を占め、改修方法などのノウハウを身に付けたいといった要望や地域の人々と係わる切っ掛けづくりが、ほしいといった要望が多く寄せられている。

● 活動の内容

二地域居住・移住者希望者と地域をつなげる地域交流活動

① 交流体験事業等の実施

- ・ 古民家改修体験などのイベントを通じて、地域との交流活動を実施している。

③ 空き家物件等の紹介

- ・ 山梨市が実施している「空き家バンク」を紹介している。

・ 平成 22 年度

- ① 古民家改修体験事業及び交流体験事業の実施
- ② 移住・二地域居住希望者相談事業及び関連情報提供の実施移住

● 活動の成果

最近の故郷回帰やLOHASな生活志向について、感覚的にはわかっているものの、山梨市に対する具体的なニーズ等は把握していなかったが、アンケート調査の実施・分析により、都会の人にとって山梨市は多くの魅力があるということ、古民家に対するニーズが高いことなどを確認することができた。

最近の、自然環境や食の安全に対する意識強く反映して、中高年層の方々は、「田舎暮らしをしながら家庭菜園や古民家を改修などして、第二の人生をのんびり暮らしたい」という希望者が多く、30代を中心とした若い世代では、「自然豊かな地で、子育てをしたい」などや「葡萄や桃づくりをしたい」言った声が多い。

古民家の改修について、ワークショップに参加しての感想は、「古民家を購入して実際どのように改修してよいか分らなかったのですが、このワークショップに参加してとても参考になった」、「今後、古民家を保存していく意義や保存方法など貴重な体験をすることができた」などの参加者の感想が寄せられている。

また、「移住や二地域居住を考える上で、地域の情報を事前に知ることができてよかった」、「参加者に、移住の方が参加していたので、実践談など実際の話聞くことができとても役立った」、「地域住民との交流が図れてよかった」といった感想も寄せられている。

新聞やTVなどで紹介されるようになってきたこともあり、少しずつ周囲の理解度が変わってきた。最近では、地域の方々が、見学やワークショップに参加する程までに進展した。

交流体験事業について、空き家見学ツアー・物件相談会では、市役所及び社団法人山梨県宅地建物取引業協会との連携により、物件の見学及び説明・相談をプロが行い、二地域居住実践者の声を聞くことができ、空き家所有者・移住希望者ともに大変参考になったとの声を多く聞けた。

● 直近1年間の成果

山梨市が、実施する「空き家バンク」の紹介と、当NPOが実施する「田舎暮らしの相談」を合同で行った。

(ふるさと回帰フェア2010 東京早稲田大学)

山梨市が、実施する「空き家バンク」成約50件達成(50件目の成約者は、当NPOの紹介者)

古民家改修ワークショップの開催。

特に、ワークショップを通じ、家屋改修方法のノウハウを身に付けることや、地域住民との交流も、地域にとっても新たな風を吹き込むことで、活性化されている。

こうした田舎暮らしの体験プログラムでは、国内にとどまらず海外からの受け入れ事業も行っている。



(干し柿づくり体験)



(韓国大学生受け入れ：土壁塗り体験 ・薪割り体験)



● 今後の課題及び展望

・課題(活動を通して発見された課題等を記入)

古民家の改修ワークショップを通じ、山梨市の魅力を伝えることができた。

同じ作業をすることで、共通の話題と新たな考え方や見方をお互い学ぶことができた。

ワークショップなど、定期的を開催することで、2地域居住者を増やしていくことができる。

・展望(今後の取組みや検討について記入)

市の「空き家バンク」制度を通じて、契約をしている移住者が、当NPO法人の会員となり、その古民家を「古民家改修体験や事業や交流体験プログラムで使用することが出来るようになった。

こうしたことにより、より効率的な事業展開を望むことができる。